

第2期

内子町総合計画

内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略

町並み、村並み、
山並みが美しい
持続的に発展するまち

2015～2024

概要版2



町並み、村並み、山並みが美しい 持続的に発展するまち

はじめに

私たちはいま、グローバル化する経済や情報通信技術の高度化、地球温暖化による大規模災害の頻発など、激動する時代の変化に的確に対応することが求められています。

このため、内子町では町政の羅針盤として、平成27年度から令和6年度までの10年間を計画期間とする「第2期内子町総合計画」を策定し、農林業の再生、着地型観光の推進、子育て支援の強化、情報通信技術の活用、コミュニティの再構築などの課題に対して様々な施策を実施して参りました。

この度、内子町総合計画前期計画と平成27年に策定した「内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間満了に伴い、これらを統合して「第2期内子町総合計画後期計画」（第2期内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略）を策定し、新たに12のミライ・プランを定めました。

策定にあたっては、中学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に参画していただき、貴重な考えやご意見を計画に反映することができました。

内子町には歴史的町並みや内子座、美しい農村景観や豊かな自然、手漉き和紙



や木蠟に代表される伝統的な技など、ポテンシャルの高い資源が数多く存在します。これらの資源を最大限に生かして、内子町のまちづくりに共感する人や企業を招き入れ、活力や創造性に満ちた「稼ぐ力」のある「住み続けられる」内子町を目指します。

急速に進む人口減少、少子高齢化に歯止めがかからず厳しい状況が続いていますが、令和の新しい時代に対応した内子町が目指す将来像「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」の実現に向け取り組まなければなりません。

笑顔あふれる安全・安心なまちづくりのため、引き続き町民の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本計画の策定に対しご指導、ご助言を賜りました法政大学名誉教授 岡崎昌之氏と愛媛大学准教授 米田誠司氏に感謝を申し上げますとともに、アンケートやワークショップにご協力いただいた町民の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和2年3月

内子町長 稲本 隆壽



1 内子町総合計画とは

1 総合計画の役割

総合計画は、時代の動向を見極め、町を取り巻く状況や直面する課題を分析し、未来に向けて適切な対応策を示す役割を担っています。課題解決の施策や事業を立案し、予算の裏付けをして、計画的に実現していくことが、この計画の役割です。いわば、課題解決のためのシナリオです。

まちづくりの舞台では、新しい事態に直面すれ

ば、筋書の変更など臨機応変に対応することが求められます。

内子町の町民一人一人、そして企業、事業体、活動グループなどが発揮するまちづくり活動の総合力がまちの源泉です。多くの主体が力を合わせて、進めていくよりどころとして、総合計画があります。

2 計画の構成・期間

■ 総合計画の構成

内子町総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つで構成されています。

基本構想

本町における総合的かつ計画的な行政を図るために定める基本的な構想のこと。

基本計画

基本構想を実現するための施策を体系的に示す計画

実施計画

基本計画に基づき、具体的に実施する事業計画（1年計画で、毎年ローリング）

【計画の構成】



【計画の期間】



3 人口推計

平成 26 年度の内子町の人口（住民基本台帳平成 27 年 1 月 1 日現在）は 17,823 人です。計画期間の人口推計は通常用いられる国勢調査の人口に基づいて推計すると、次のようになります。

【人口推計】

年齢階層	2020年(人)	2025年(人)
年少人口（0～14 歳）	1,521	1,319
生産年齢人口（15～64 歳）	7,564	6,742
高齢者人口（65～74 歳）	2,759	2,397
高齢者人口（75 歳以上）	3,495	3,619
合計	15,339	14,077

※国立社会保障・人口問題研究所 2013 年 3 月推計

4 後期計画について

内子町では、平成 27 年 3 月に第 2 期内子町総合計画（10 年間）を策定しました。平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間の前期計画とし、重点施策「プロジェクト 10」に基づいて、まちづくりを進めてきました。

この度、前期計画を振り返るとともに、急速な社会情勢の変化などへ対応するため、令和 2 年度から 5 年間の後期計画の重点施策「ミライ・プラン」を策定しました。

策定にあたっては、「町民参加を意識した計画とすること」を基本方針のひとつに位置付け、町民アンケートや町民学習会を実施。将来を担う中学生や高校生を対象に「学校別未来づくりワークショップ」を開催し、住みたい町の要素を一緒に考えました。策定作業は住民と役場職員で策定チームを編成し、ワークショップ、先進地視察、プレゼンテーションなどを経て行いました。

第 2 期

内子町総合計画【概要版 2】

目次

① 内子町総合計画とは	4
② まちづくりの課題	6
③ まちづくり戦略	8
④ 重点施策 ミライ・プラン	10
ミライ1 住みたい人をよべるまち	
ミライ2 誰もが安心して暮らせるまち	
ミライ3 未来へつながる仕事を創造するまち	
ミライ4 災害に強い安全なまち	
ミライ5 環境危機に行動するまち	
ミライ6 地域への愛着が観光につながるまち	
ミライ7 人も、地域も、生き生きと輝き続けるまち	
ミライ8 学びあい育ちあえるまち	
ミライ9 次世代技術を活用したスマートなまち	
ミライ10 内子のミライ	
ミライ11 五十崎のミライ	
ミライ12 小田のミライ	
⑤ 第 2 期内子町総合計画構成図	22

2 まちづくりの課題

【課題1】

農林業再生の新たな挑戦

■ますます厳しい農林業の状況

農林業は商工業に比べると、国の関与が大きく、国の施策に規定され補助金に支えられている現実があります。独自の事業を進めることは、たやすいことではなく、担い手の高齢化、鳥獣被害による営農意欲の減少、休耕地も増えています。

■危機意識をばねに取り組み

衰退からの脱出には危機意識をばねに、①法人化や1ターン者就農支援による中核農家の育成、②集落営農など地域が助け合う農業をめざし、農村景観保全に努める、③農地利用の再編で担い手への農地集積・集約化、④特別栽培農産物のブランド化、⑤内子産品の販路開拓・観光客誘致などに取り組む必要があります。

【課題2】

着地型観光の体制づくり

■変わる観光の動向

内子町に「稼ぐ力」をつけるうえで、観光振興は、喫緊の重要性を持っています。宿泊観光が減少傾向にある中、まちの総合的な魅力アップをはかり、外国人の誘客や、顧客管理能力を高めていくなど、21世紀の新しい観光振興策を進めていく必要があります。

■着地型観光の充実が課題

着地型観光の充実は、これからの内子町の観光振興の大きな課題です。着地型と発地型は、必ずしも対立した関係ではなく、着地側の仕組みが充実し、観光客の満足度が高まれば、発地側の旅行会社は内子町により着目し、よりよい旅行商品の開発やサービスにつながります。

【課題3】

子育て支援の強化

■元気な子どもたちの声が聞こえるまちに

人口問題で重要なのは、人口構成です。地域の「稼ぐ力」の中核となる生産年齢人口（16～59歳）が減少し、次世代を担う子どもたちも減り続け、高齢者が増えているのが現実です。

内子町を元気な子どもたちの声が響くまちにしたい。これは全町民の願いです。

■子育て対策の充実

今後は少子化対策、とりわけ子育て対策が重要です。「子どもを安心して預け、しっかりと働きたい」という子育て世代の声を汲み取り、子育て対策を充実させる必要があります。



人口急減社会など、転換期にある時代の中、内子町において重要と思われる課題です。

【課題4】

情報通信技術の活用

■情報通信技術を活用する開かれた自治体に

情報通信技術（ICT）の進歩は著しく、関連する分野は広範囲であり、全体状況を把握し、適切な判断で取り組む必要があります。

情報機器を積極的に活用して、業務の効率化や改善をはかるスマート役場を推進し住民サービスを低下させないために、情報通信技術で、補完、代替することが必要です。

■新しい情報ニーズに対応する仕組みづくり

教育や保育の現場、福祉や医療の分野、さらには防災対策や構築物の劣化状況調査などで新しい機器やサービスが登場するため、これらをうまく使いこなす行政の適切な判断が求められます。

町内の企業からは情報通信基盤の不備解消、観光客などからは公衆無線 LAN に対する要望が増えています。企業誘致にも不可欠な情報通信基盤の整備を行政として主導する必要があります。

【課題5】

コミュニティの再構築

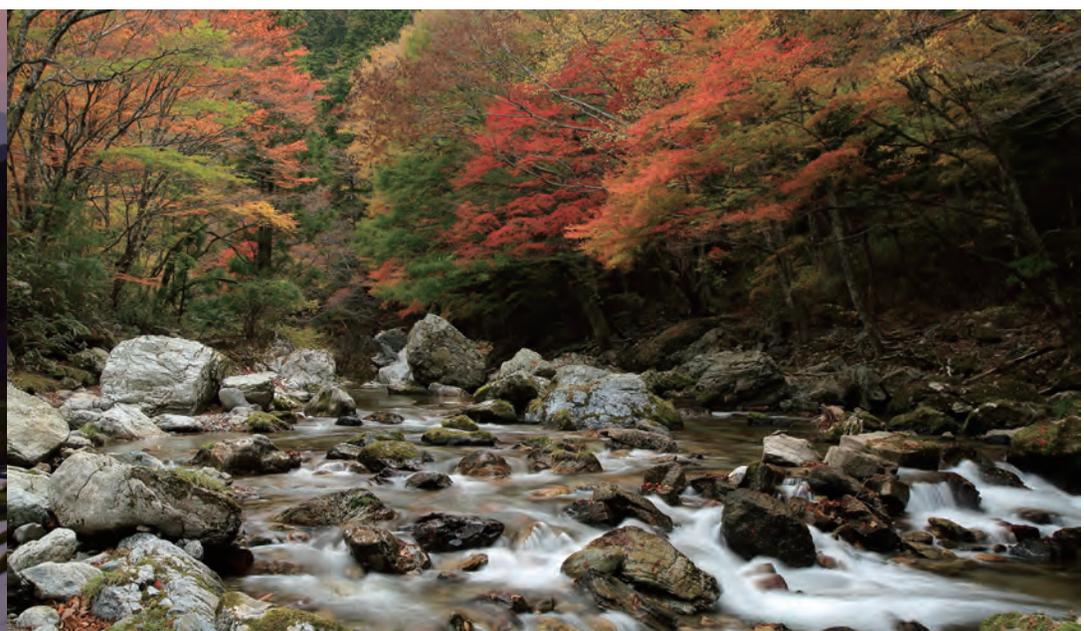
■自治力の強化が大きな課題

コミュニティの維持・強化は、内子町の永続的な課題です。前期計画においても、自治会制度の普及と自治力の強化が大きな課題となっていました。

自治会はさまざまな問題を抱えていますが、一番の問題は構成員の高齢化です。そのため、将来的には、隣接する自治会が合併することも必要になりますが、自治会は本来、日常生活圏をもとに成り立っているため根本的解決にはなりません。

■協働で新しいコミュニティを構築

その一方、いまほど、コミュニティの力が必要な時期もありません。コンパクトな行政を補完するのは、地域住民の力です。行政の力の及ばないところは、地域住民が補うことによって、さまざまなコミュニケーションやサービスが維持されるからです。住民と行政の協働によって、内子らしい新しいコミュニティのあり方を追求していくことが求められています。



3 まちづくり戦略

課題解決のため2つの戦略を掲げ、まちづくりを進めます。

【戦略1】

「稼ぐ力」のある内子町をめざす

■地域の元気を維持するために

内子町は、財政状況が厳しくなる中で、町民の豊かな生活を守り、地域の元気を維持していくために、「稼ぐ力」をつける施策を展開します。

経済的な力をつけることで、安全で安心できる暮らしを維持し、福祉、教育、文化などの面で町民の暮らしを支えていきます。

■内子町ならではの「稼ぎ方」を模索する

私たちが日々直面している課題の多くは「大規模・集中」によってもたらされたものです。21世紀は「小規模・分散」への転換をはかる時代です。小規模・分散型の地域の伝統文化、暮らしの作法・技術などの魅力を、大規模・集中型の人々に提供することで「稼ぐ力」を発揮します。

■地域発信型事業体を創出・誘致する

小規模・分散型「稼ぐ力」の代表例は、「内子フレッシュパークからり」です。「からり」は生産者の「稼ぐ力」を育て、各地の地産地消マーケット誕生の先駆けとなりました。この経験を生かし「攻めの農業」へと展開していきます。

また豊かな自然、特色ある町並み・商業空間、優れた企業人を輩出した

創業遺伝子を発揮し「稼ぐ力」を磨き上げます。

■町民と行政が経営センスを発揮する

「稼ぐ力」の源泉は、町内の企業、事業体、そして町民一人一人です。行政職員も「稼ぐ力」を念頭におき、税金を無駄なく適切に使い、有利な補助制度を活用するなど、「稼ぐ」施策を追求し、経営的センスを習得することに務めます。

戦略1を進める取り組みの例

- ①農業の衰退を食い止める「攻めの農業」を推進する。
- ②持続可能な森づくり産業（六次産業）としての「森業」を振興する。
- ③商業者と行政が協働して、特色とにぎわいのある商店街をつくる。
- ④着地型観光を推進し、持続可能な観光産業を確立する。
- ⑤国内外との交流をはかり、新しいビジネスチャンスを開拓する。
- ⑥情報通信基盤を整え、経済活動の活性化、高度化をはかる。
- ⑦地域エネルギーの開発に取り組み、地域の自立度を高める。
- ⑧町内の企業と連携して安定した雇用を確保する。
- ⑨特色ある産業や起業を支援する。
- ⑩独自の技を持つ移住者を受け入れ、多様な業種のある町をめざす。

【戦略2】

「住み続けられる」

■規模拡大のまちづくりからの転換

内子町は将来の人口減少を前提とし、その悪影響を緩和し、町民の暮らしの質を損なわない「住み続けられるまち」をめざします。

第2期計画初年度から、地方交付税が減少しています。右肩上がり前提とした、これまでの規模拡大のまちづくりからの大きな転換をはかります。

■町民と行政が力を合わせて、安心・安全を築く

安心・安全なまちづくりは、町民だけでも行政だけでも実現できません。町民と行政がそれぞれの情報を共有して、減災をはかるためのよりよい連携・対応が取れる体制づくりを進めます。

■Uターン人口を確保する

「国土のグランドデザイン2050」（国土交通省）では、20～30代の独身又は子ども世帯を組み入れた1%の転入者（年当たり）があれば、人口定常化社会（世代間のバランスが保たれ、急激な人口減少が起こらない社会）が実現できるとしています。内子町への移住・定住施策を推進し、Uターン人口1%を目標に住み続けられる内子町をめざします。

内子町をめざす

戦略2を進める取り組みの例

- ①行政サービスの低下を防ぎ、町民の利便性の向上をめざして、情報通信技術を積極的に活用するとともに、民間にできることは、できるだけ民間に任せる。
- ②市街地整備、集落整備等のコンパクト化をめざす。
- ③公共施設等は、統廃合、民間施設との複合化、合築や減築など、将来の利用状況や維持管理体制を予め想定して整備をはかる。
- ④UIターナーを増やし、子育て支援策を強化充実させ、子どもたちの元気な声が響く人口定住化のまちをめざす。
- ⑤町民の安心・安全を守る広範で総合的な災害対策に取り組む。
- ⑥子どもたちへのふるさと教育を推進するとともに、地域の伝統や文化を再評価する社会教育活動を促進する。
- ⑦高齢者や障がい者福祉を充実させ、いつまでも安心して暮らせるまちをめざす。
- ⑧住民同士の絆を強めるとともに、自治力のあるコミュニティを構築する。
- ⑨町民や職員、専門家等の知恵を結集し、まちづくりを提案する組織を検討する。
- ⑩職員の能力向上に力を入れ、少数精鋭型役場をめざすとともに、行政職員OBの能力を生かす仕組みをつくる。



4 ミライ・プラン

ミライ
01

Policies of Uchiro Town

住みたい人をよべるまち

基本方針

内子町に移住した多くの人が、町の歴史や文化、自然などに魅力と可能性を感じたと言っています。都会の生活から離れ、文化的な暮らしや農ある暮らしをしたいという人も増えています。そのような人たちに内子町での暮らしのコンセプトを提供する場を作り出し、併せて移住に必要な情報を発信します。一緒にまちをつくろうと気持ちが通じ合った人たちが集まれるような環境を整備し、まちの力を養います。

主な取り組み

1 外部人材によるまちの活性化

和紙・炭・木工などの伝統産業や、農林業・商工業・医療福祉などの分野で受入体制を整えます。起業や事業承継を含め、それぞれの分野を担う人材を誘致し支援します。また、地域おこし協力隊などの制度を積極的に使い、意欲と能力（スキル）を持った人材の移住・定住を促します。

2 受入環境の充実

行政と地域、各種団体が連携して、移住可能な空き家を確保し、移住促進に役立てます。受入側の住民や移住希望者の不安を和らげるために、先輩移住者や移住希望者、地域住民が集う場を企画します。相談できる人脈づくりも支援します。

3 移住お試し機能の充実

内子で暮らすために必要な仕事の情報や移住者の経験などをもとに、具体的な移住体験プランを作成し発信します。1週間程度利用できるお試し住宅を用意し、気軽に移住体験ができる仕組みを整えます。廃校などを利用した集合型のお試し滞在施設の導入も検討します。

4 子育て支援の充実

「こども支援課」を中心に、子育て環境のさらなる充実に努めます。子どもの発達に関する相談をワンストップ化し、子どもや親の支援を進めます。放課後の子どもの居場所づくりのため、放課後子ども教室や放課後児童クラブなどの学童保育を充実させ、対象年齢の拡大も図ります。



誰もが安心して暮らせるまち

基本方針

「住み続けられる」内子町にするために、誰もが地域の担い手として安心して暮らせるまちを目指します。そのためには、支える側と支えられる側に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち活躍できる地域共生社会が求められます。年齢や性別、障がいのあるなしに関わらず互いを理解し、共に地域をつくっていく環境を生み出します。



主な取り組み

1 地域の元気を創造する

いつまでも健康で支え合いながら生きることが活力ある地域社会を築きます。その実現のため、地域とNPO、ボランティアなど各種団体が協働できる「地域包括ケアシステム」などの構築を進めます。

2 生きがいを感じる場の提供

高齢者や障がい者が、充実した社会生活を送ることができる環境の整備を進めます。そのための手段として、「農福連携」の取り組みを検討します。比較的軽作業で取り組むことができる農業と福祉を連携させ、多くの人が生きがいを感じながら、経済的利益も得られる環境整備に取り組みます。

3 社会とのつながりの強化

少子高齢化の進行や家族形態の変化により社会との関係が希薄となり、引きこもる人や孤立する人が増えています。共通の悩みを持った人が集う「ふらっとカフェ」のような、身近な居場所づくりを支援します。

4 ユニバーサルデザインの採用

すべての人が快適に利用できるユニバーサルデザインの採用を進めます。既存施設で問題がある個所については改善を進め、新たに設置する施設についてもユニバーサルデザインの採用を進めます。

5 地域医療体制の維持・強化

関係機関と連携を強め、二次救急体制の維持強化を図ります。あわせて、地域の実情に合った医療体制を構築するため、抜本的な医療制度の改正を求めて国や県に強く働きかけていきます。





ミライ
03
Policies of Uchiko Town

未来へつながる 仕事を創造するまち

基本方針

内子町ではこれまで、「からり」や「せせらぎ」などの産直市場を設置し、農産物などの直売ができる仕組みを整えました。林業では六次産業化に取り組むとともに、バイオマスの活用を進めてきました。さらに、町産品の大都市圏や海外への販路拡大、創業・起業支援制度の創設などの支援をしています。

その一方で生産者の高齢化が進み、担い手の確保が急務となっています。これまでの政策を基礎に、農業、林業、商工業、観光業などの連携を強化し、人材の確保と魅力ある産業の創出・育成を進めます。



主な取り組み

1 担い手の育成

農業の分野では、新規就農者研修施設や各種支援制度を活用して、担い手の確保に努めます。林業の分野では六次産業化を継続しながら、森や林業への関心を高める森林サービス産業のような取り組みを支援します。商工業の分野では、事業承継を支援するために企業と人材をマッチングする仕組みを整えます。また、子どもたちが町内の仕事への興味・関心を高める取り組みを行います。

2 労働力の確保

さまざまな要因で各分野の労働力が不足しています。将来的に不足が予測される分野もあり、需要と供給を調整し適切に労働力を配置することが必要です。求人情報などの有益な情報を適宜、町のホームページなどで公開するとともに、労働スケジュールに合わせたマッチングを進めます。

3 内子ブランドを生かした製品づくり

町の農林産物や加工品が市場で有利に販売できるよう、栽培講習会などの開催を支援し、品質の向上や均一化、供給量の安定化を図ります。既存作物から優良作物・優良品種への転換も進めます。長期保存の仕組みや技術の導入を支援し、価値が高まる時期の出荷や海外への販路拡大を進めます。

4 創業・起業支援

創業・起業支援制度を情報発信し、銀行や商工会と連携して、広い範囲から意欲のある人材や提案を募集します。将来性の見込めるものには積極的に支援できるような制度を作ります。

制度を利用して創業・起業した人たちへの継続的な支援を行います。

5 産業の連携推進

農業、林業、商工業、観光業などが横断的に連携する連絡会議や組織の設置を検討し、そこから生まれた新しい試みを支援します。



04

Policies of Uchiko Town

災害に強い安全なまち

基本方針

平成30年7月豪雨をはじめとする大規模な災害が、頻繁に起こっています。南海トラフ巨大地震では甚大な被害が発生する恐れがあるだけでなく、伊方原子力発電所から30km圏内という地理的条件から、複合災害が起こることも考えられます。

危険個所の把握や食料や燃料の備蓄、建物の耐震化など、防災・減災の両面から最善の備えをして、災害発生時の支援体制などの公助を強化します。また、日頃から家庭や地域で災害に備える環境づくりに取り組み、自助・共助の力を蓄えます。

主な取り組み

1 リスクの周知

町内の土砂災害警戒区域や浸水想定地域などのハザードマップを活用し、周知を図ります。戸別受信機の整備、防災メール配信加入者の促進などの有効な手段を使い、情報発信の多重化を図ります。

2 地域防災力の強化

地域の防災力を高めるためには、日ごろから顔の見える関係を築くことが重要です。自治会活動などを通して、住民同士が連携できる環境を整えます。自主防災組織の機能強化を図るため、訓練などの活動を支援するとともに、防災士の養成を行います。さらに、消防団の装備の充実や団員の加入促進を図り、地域防災力の強化に努めます。

3 まちの耐震化

道路や橋梁などの点検と、長寿命化のための改修を行います。中心市街地の無電柱化を進め、電柱の倒壊による被害や交通の寸断を防ぎます。ブロック塀や危険建築物の撤去、木造住宅の耐震化を進め、地震に強いまちをつくります。



4 拠点機能の強化

災害時の拠点となる役場本庁や分庁、支所の耐震化は完了しています。しかし、本庁や分庁は浸水想定区域に位置し、大規模水害の際には機能しないことも考えられます。そのため、災害対策本部機能の強化を図るとともに、防災拠点の分散化も視野に、拠点機能のあり方について検討します。

5 避難所の充実強化

非常時の食料などを計画的に備蓄するとともに、地域間で物資の相互供給ができる体制を整備します。また、避難所の機能強化のため、非常時電源の確保を行うとともに、先進事例に学び、避難者ができるだけ快適に過ごせるよう、必要な物品や体制の整備に努めます。

環境危機に行動するまち

基本方針

内子町では、町並みや内子座などの歴史的環境保全、村並み保存運動の推進、泉谷の棚田の保全、小田深山の自然を守る「せんの森プロジェクト」の推進など、さまざまな環境保全活動を実践しています。

地球温暖化の影響が深刻さを増す中、2015年9月に国連が持続可能な開発目標であるSDGsを採択し、2030年の実現を目指しています。内子町でもこれまでの活動を基礎に、町民一人一人が当事者としての自覚を持って地球環境の改善に貢献する行動を起こします。



主な取り組み

1 ごみゼロへのチャレンジ

町民への啓発活動に取り組むとともに、分別と再利用の仕組みを構築し、ごみの減量を図ります。従来の焼却処理だけでなくエネルギーとしての再利用を検討します。ごみゼロを目指して、誰もがわかりやすく取り組みやすい方法を検討し、実践に移していきます。

2 食料、エネルギーの自給率向上

学校給食や飲食店、家庭における地域の農産物の使用割合を高め、食糧の自給率を向上させます。景観や安全へ配慮しながら、バイオマス発電や太陽光発電などの自然エネルギーの利用を促進し、エネルギー自給率を高めます。そのための取り組み項目や達成に向けた手法などを検討し、実践へとつなげていきます。

3 自然生態系の保全

貴重な動植物や内子町特有の生態系を保全するため、「お宝スポット」の選定を行い、その保全プランを作成します。同時に専門家を育成し、自然

の中で遊んで学べるプログラムを作ります。楽しみながら地域の環境への理解を深めることで、エコロジータウン内子の実現を図ります。

4 魅力ある風景の創造

内子らしい風景をつくるため、「景観まちづくり計画」に基づいた景観まちづくりを推進します。歴史的環境を保全するため「歴史的風致維持向上計画」に則り、その実現を図ります。景観や環境に配慮した建造物を推奨し、土塀、板塀、生垣の設置を推進することで、魅力ある風景と潤いのある環境を創造します。

5 環境教育の推進

環境子ども会議の継続など、豊かな自然環境や伝統的な生活環境を生かした、内子町ならではの環境教育に取り組みます。小学校4年生から中学校3年生に配布している内子町環境教育副読本『ふるさと』を幅広く活用し、生涯を通じた環境教育を実践します。そのため、『ふるさと』の内容は定期的に見直し内容充実し、より使いやすい副読本とします。





ミニ
ライ
06

Policies of Uchiko Town

地域への愛着が 観光につながるまち

基本
方針

内子町では「着地型観光」を推進するとともに、外国人観光客の受け入れ体制の強化を図っています。今後は、これらを継続しながら地域資源に一層の磨きをかけます。二次交通の整備や情報の集約・発信は、最先端の技術や時代のニーズに応じた手法などを研究して実現を図ります。

町民が町内の観光資源に目を向け、愛着を感じ、地域を誇りに思うことが、外への情報発信や来訪者の拡大につながります。後期計画ではこれらの取り組みを「愛着型観光プロジェクト」とし、住民の地域への愛着を高めながらさらなる誘客に努めます。



主な取り組み

1 地域人材の育成支援

内子の技を継承する「職人」を住民、移住者などに幅広く呼び掛けて募り、その育成を積極的に支援していきます。

地域や学校と連携し、地域の後継者や地域の魅力を語れる人材の育成を積極的に行います。さらに、町全体で地域資源の記録化を進め、人材育成にかかる体制の充実を図ります。発信力のある住民や、経営やマネジメントに長けた人材を発掘し、それらの人材と連携した誘客や事業支援を行います。

2 地域資源の磨きと商品化

今後も地域に眠る資源の発掘と情報発信に努めます。(一社)内子町観光協会や内子町グリーンツーリズム協会などと連携して、内子町での特別な時間を来訪者に提供し、内子らしいおもてなしをする滞在型の観光プログラムを作ります。

3 戦略的な受入体制づくり

まちづくりのガイドブックや、伝建地区のルールをまとめた理解促進ツールを活用し、地域での生活について情報提供を行い、内子町のまちづく

りに共感をもつ、新たな担い手の発掘につなげます。

歴史や伝統に関心のある層に、伝統的建造物に特化した空き家情報を提供し、保存を前提とした活用促進を図ります。内子の魅力向上に寄与する事業を支援するため、まちづくりファンドの創設も視野に入れ、金融機関などとのネットワーク構築を図ります。

4 二次交通の整備

町内移動手段(二次交通)の多様化を図ります。町内交通の全体計画を立て、基盤整備を進めるとともに、先端技術の導入や民間の創意工夫、経営力を生かす交通事業を支援します。来訪者だけでなく住民の利用も視野に入れ、より利便性の高いものを目指します。

5 情報の集約と発信の強化

(一社)内子町観光協会と連携し、観光プロモーションの一元化を進めます。SNSなどを活用して国内外に広くプロモーションを行い、ターゲット別に観光情報の発信を行います。町外からの誘客だけでなく「町内観光」として住民への発信を行い、住民の意識の向上と理解の促進を図ります。



ミライ07

Policies of Uchiko Town

人も、地域も、 生き生きと輝き続けるまち

基本方針

内子町では、41の自治会が10年ごとに「地域づくり計画書」を作成し、住民自らが地域づくり活動を実践しています。その活動は多岐にわたりますが、近年ではコミュニティビジネスに乗り出す自治会も出ており、その成果は内外から注目されています。その一方で、地域の担い手不足が深刻化し、自治会活動のみならず、伝統行事や道路の管理作業などの維持も困難になっています。これからの地域をどう維持していく

かは、全国的な課題となっています。

そこで、日常的なコミュニティ活動（福祉・防災など）を担う自治会を基礎とし、新たに地域課題（道路や農地の維持管理・地域ビジネスなど）を解決するためのミライ創造型コミュニティの結成を促し役割分担を図ることで、コミュニティの維持と地域活性化を推進し、自治会と両輪で課題解決型の地域づくりを進めます。

主な取り組み

1 基礎コミュニティの維持

地域のコミュニティを維持する上で母体となる自治会ですが、高齢化が進み、参加者の減少や役員のなり手がいないなど活動を減退させる状況が生まれています。このような状況を改善するために、地域の実情に即した持続可能な体制づくりを支援します。

2 地域の集いの場の確保

住みやすい地域づくりのためには、顔の見える関係が重要です。そのため、空き家や空き店舗、廃校などを活用した身近な「集いの場」の確保に努めます。さらに、同じような課題を抱える自治会が連携して課題解決方法を検討する場づくりに努めます。

3 未来創造型コミュニティの結成促進

自治会の枠組みとは別に、集落活動やコミュニティビジネスで個々の地域課題に向かい合うミライ創造型コミュニティの結成を促します。担い手としては、企業や役場等のOB、地域おこし協力隊や集落支援員、その他インターンシップや企業版ワーキングホリデーなどの活用が見込まれます。活動場所としては、空き家や空き店舗、廃校などの利用を検討します。町は助成制度の整備や研修制度を整備し、組織の発足と事業の開始を支援します。地域のワクワク感を生み出すことで、スモールビジネスの創出を目指します。



学びあい育ちあえるまち

基本方針

内子町では子育てしやすい環境を整備するため、中学生までの医療費無料化や子ども応援券などの制度を作りました。子育て関連の施設を充実し、放課後子ども教室や放課後児童クラブの運営も進めてきました。令和2年度には「こども支援課」を設置し、子育て関連の政策を一元的に行う体制を整えたところです。

社会は急速な技術革新、グローバル化、人口構造の変化など転換期にあります。家庭環境の変化や地域コミュニティの衰退などを背景とした、「教育力」の低下が懸念されるようになりました。こうした時代を生き抜く力を育むために、家庭・地域・学校がこれまで以上に連携して、誰もが学びあい育ちあえる環境をつくります。

主な取り組み

1 家庭の教育力アップ

家庭教育はすべての教育の出発点であることから、「親の学び」と「親子の学び」の二本柱で親子の育ちをサポートします。「親の学び」は、複数の機関が個々に実施している講座などを見える化します。連携・充実を図ることで、発達段階に応じた子育ての悩みに対応し、切れ目のない効果的な学びの機会を提供します。「親子の学び」は内子町ゆかりの人などを講師とし、郷土の歴史・文化・産業や、趣味、特技などをテーマとした体験活動をします。自治センターや自治会などの活動を通して、親子が触れ合いながら充実した時間を過ごせる場を提供します。

2 コミュニティ・スクールの推進

小田地区で実施されているコミュニティ・スクール(※)を全町に展開します。地域が学校運営に関わることで、ふるさと教育を実践し、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整えます。

3 国際人教育の推進

公益財団法人内子町国際交流協会と連携して、子どもや大人たちの英語教育の環境整備に取り組みます。子どもの英語検定試験の助成を継続し、英語指導助手の適正な配置に努めます。英語が教科化される小学校での教育を充実するため、ドイツ・ローテンブルク市などとの交流を生かし、教員の資質向上を支援します。



※コミュニティ・スクール・・・学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教法第47条の6）に基づいた仕組み





ミライ
09
Policies of Uchiko Town

次世代技術を 活用したスマートなまち

基本方針

人口減少の中で持続可能な社会を目指すためには、日々進化するICT（情報通信技術）を利活用し、複雑・多様化する住民ニーズに対して、さらに質の高い行政サービスを提供していくことが求められています。内子町では、内子町情報通信基盤整備基本構想に基づき、町内全域に光ファイバー網を、公共施設にWi-Fi環境を整備しました。

タブレット、スマートフォン、IoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）、RPA（ロボットによる自動化）

などの普及・進展などを的確に把握し、様々な分野でICTの積極的な活用を進めることで、生産性の向上や高品質化、労働力不足などの課題解決に取り組みます。

公共分野ではICTを活用した政策・事務効率化を企画立案します。横断的な推進体制の整備、庁内のセキュリティ対策、地域の特性・実情に対応した専門的な知識や技能を有するICT人材の育成、起案文書の電子決裁化、AIを活用した国民健康保険レセプト点検、フレックスタイム制やテレワーク導入を検討します。

主な取り組み

1 行政事務の効率化・働き方改革の推進

ペーパーレス化（タブレット・Web会議等の導入）を推進します。行政サービスの内容、提供方法などを刷新し、複雑・多様化する住民ニーズに対して柔軟に対応できる行政をめざします。行政のデジタル化を推進し、AIやRPAを活用して定型業務は自動化し、企画立案などに職員の仕事をシフトさせ、新たな発想に取り組む環境を構築します。

2 暮らしに寄与する次世代技術の導入

マイナンバーカードの普及・啓発を図るとともに、電子申請など行政のデジタル化を推進し、住民サービスの向上をめざします。

ドローンを活用した情報収集や物資運搬、AIやRPAを活用したスマート農業、水道のスマートメーター化、ロボットによる生活支援、AIを活用したリアルタイムの自動健康診断・病気の早期発見など、暮らしや生産性の向上に寄与する技術の導入を進めます。





内子のミライ

基本方針

内子地区は内子町の中心市街地で、JR内子駅や松山自動車道の内子五十崎ICが位置するなど、町の玄関口として機能しています。長年、町並み保存や村並み保存に取り組み、伝統的建造物群保存地区や内子座などの文化財が保存されるとともに、周辺部には豊かな農村景観が広がっています。毎年、多くの来訪者を迎え入れています。滞在時間は短く客単価も低くなっています。この状況を改善し、来訪者が内子町でゆっくり滞在するよう、暮らしと観光の融合を図ります。

主な取り組み

1 内子駅前交流計画

JR内子駅は内子の玄関口ですが、賑わいがなく、観光スポットへのアクセスの悪さも指摘されています。カフェや店舗などの出店を促し、玄関口にふさわしい賑わいを創造することが望まれます。

現在は（一社）内子町観光協会が運営する「旅里庵」が、観光客への案内や自転車の貸し出しなどを行っています。さらに充実した機能が望まれます。特に、二次交通の充実は前期計画での課題でもあります。これまでに複数の実証実験を行ってきましたが、採算性の問題などから未だに実現していません。今後は、超小型モビリティなど新しい技術にも目を向け、二次交通の充実を目指します。

2 内子本町商店街にぎわい計画

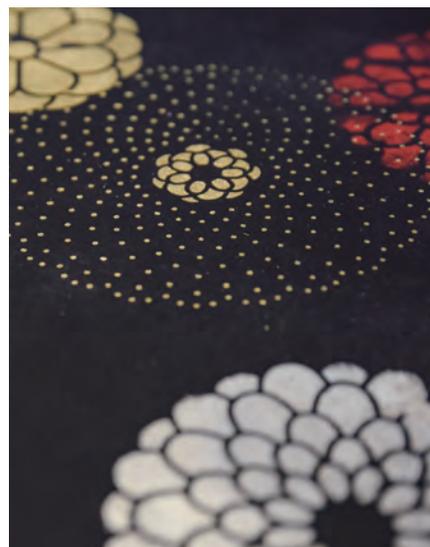
商店街に立ち並ぶ電柱を整備し、防災と景観に配慮した内子らしい商店街を形成します。物件紹介や空き店舗改修の補助制度の支援を継続し、新規出店や事業承継を促進します。

3 歴史文化が息づく“まちづくり”計画

令和元年度に策定し、国の認定を受けた「内子町歴史的風致維持向上計画」を実現し、5つの歴史的風致と定めた区域の維持と向上を図ります。同時に歴史的環境の保全と文化の継承、情報発信に努めます。



五十崎のミライ



基本方針

五十崎地区の歴史は古く、愛媛県を代表する伝統行事である大凧合戦が今も続いています。大洲藩の専売品であった大洲和紙の技術を今に伝える和紙工場や、紙漉き職人も現役で活躍しています。市街地周辺には、大規模な農家建築も残されており、山間部には日本棚田百選に選ばれた「泉谷の棚田」も保全されています。和紙に新たな境地を開いたギルディングや、棚田オーナー制度など、地域資源を生かし守るための取り組みも行われてきました。これらの資源について、情報発信を強化するとともに、潜在的な資源の発掘に取り組みます。

主な取り組み

1 資源の見える化

五十崎地区には、多くの地域資源がありますが、市街地周辺には大規模な農家建築が残るなど、まだまだ一般的には知られていない地域資源も多くあります。このうち、和紙生産の歴史については、令和元年度に愛媛大学の協力のもとで調査が行われましたが、その他、潜在的な資源についても順次調査を行い、その価値を再評価するとともに、その成果を「見える化」し、地域の情報発信を進めます。

2 ものづくりとアートのまち

五十崎地区には、和紙工場や造り酒屋が現存し、ギルディングや木工品、陶芸など様々なものづくりが行われています。それらの製品を紹介するクラフトフェアは毎年開催され、恒例のイベントになっています。また、五十崎地区には、郷土出身の戦没画家上岡美平の作品が数多く残され、その

一部は五十崎凧博物館で常設展示されています。平成29年度には没後80年を記念した「上岡美平 作品とその生涯」展が開催され、改めてその存在に光が当てられました。町内には、上岡美平のアトリエも現存しています。この環境を生かし、ものづくりとアートにスポットを当てたまちづくりを進めます。

3 川づくりの継承

小田川は、日本の近自然河川工法発祥の地と言われています。小田川の護岸や榎を守るため立ち上がった住民たちが、ヨーロッパの近自然河川工法に学び、住民一人一人が一個の石を持ち寄る「美しい小田川を未来に引き継ぐ石一個提供運動」を展開して、河川環境を守った歴史があります。かつては、筏流しや川船の運行が行われていた小田川は、五十崎地区のシンボルであり、いかざき大凧合戦の舞台でもあります。この環境を守り、川づくりを継承するとともに、河川環境を生かしたまちづくりに取り組みます。





ミライ
12

Policies of Uchiko Town

小田のミライ

基本方針

小田地区は古くから林業が盛んでした。切り出された材木は筏に組んで川を流し、長浜港から全国へ出荷されました。その後、需要の減少で木材価格が低迷し、林業は衰退していきましたが、近年は原木市場の扱い量が再び高まり、バイオマス発電所も稼働するなど活気を取り戻しています。

内子町の中でも人口減少と高齢化が著しい小田地区ですが、地域おこし協力隊の活躍などにより若い世代の移住が増え、将来への可能性が芽生えています。この機運を生かし、小田で心豊かに過ごす小田流ライフスタイルの確立を目指します。

主な取り組み

1 小田深山プロジェクト

小田深山の景観と環境を生かした深山森興（振興）を図ります。拠点施設の整備、渓谷の遊歩道整備やスキー場の活用などを一体的に進め、小田深山の魅力度向上を目指します。久万高原町、高知県津野町などと連携し、四国カルストから小田深山を一体とした誘客を図ります。

2 小田ブランドづくり

伝統的な食を小包として販売する加工所、古くから盛んな林業関連の民間会社、バイオマス発電所、地元産材を使用した木工品やフレグランスの開発など、地域資源を有効に活用した小田のブランドづくりを進めます。

3 空き家や公共施設の有効活用

旧田渡幼稚園をへんろ宿として改修する計画を地元自治会と進めます。町へ寄贈された旧二宮邸の活用は、地域おこし協力隊を中心に活動方針を検討し



ます。空き家の活用は歴代地域おこし協力隊の活躍でずいぶん解消されています。これらの動きを支援し、廃校や空き家を今後のまちづくりの資源ととらえ、積極的に有効活用を図ります。

550人を収容できる文化交流センタースバルや、野球場、テニスコート、体育館を有する城の台公園について、演劇や音楽活動、スポーツ合宿等の誘致を進め、利用促進を図ります。

4 内子高等学校小田分校の魅力化

愛媛県立内子高等学校小田分校では地域に開かれた魅力ある教育プログラムが行われています。これを核として、小田地域の教育環境を充実させます。具体的には、コーディネーターを配置し、小田らしい特色ある教育プログラムづくりや魅力の発信を行います。寮を充実し、町外からの生徒の受入れ体制を整えます。これらの活動を通して、学校を核とした小田地区の地域づくりにつなげます。

5 おだ住みよい計画

小田地区で生活するうえで課題となっているのが、買い物と交通です。人口減少に伴い商店が減り、日常的な買い物に支障が出ています。特に、山間部の高齢者にとっては、交通の便が悪く、買い物だけでなく通院にも支障が出ています。これらを解決するため、事業者との連携も視野に入れた検討をし、地域に合った仕組みを構築します。

基本構想 (2015年度～2024年度)

まちの将来像

町並み、村並み、山並みが美しい
持続的に発展するまち

キャッチフレーズ

- ▶キラリと光るエコロジータウン内子
- ▶住んでよし、訪ねてよし、^{うま}美し内子

1 内子町を取り巻く状況

- ・人口急減時代
- ・コンパクトなまちづくり
- ・安全・安心のまちづくり
- ・情報産業革命
- ・エネルギー大転換

2 まちづくりの課題

- ・農林業再生の新たな挑戦
- ・着地型観光の体制づくり
- ・子育て支援の強化
- ・情報通信技術の活用
- ・コミュニティの再構築

3 戦略1 「稼ぐ力」のある内子町を目指す

- ・「攻めの農業」の推進
- ・六次産業による「森業」の振興
- ・特色とにぎわいのある商店街の創出
- ・着地型観光の確立
- ・国内外との交流で新しいビジネスチャンスを開拓
- ・情報通信基盤による経済活動の活性化—— など

4 戦略2 「住み続けられる」内子町を目指す

- ・市街地整備、集落整備等のコンパクト化
- ・公共施設等の統廃合、民間施設との複合化
- ・UIターン者を増やし、子育て支援策を強化
- ・安全・安心を守る総合的な災害対策
- ・子どもたちへのふるさと教育を推進
- ・高齢者や障がい者福祉を充実—— など

5 目指すべきミライ

「内子の強みを生かす！」

内子町はこれまで、町並みの保存や農村景観の保全、山の環境保全、先進的な環境政策、住民主体のまちづくり活動など、さまざまな施策を展開してきました。その結果、多くの来訪者が訪れるようになり、移住者も増えてきました。文化庁長官表彰をはじめ多くの賞を受賞し、長年のまちづくり活動の積み重ねが今、内子の魅力として花開こうとしています。

一方で、人口減少は町の将来を脅かしています。今後5年の具体的な施策で自然減の抑制や若者の町外流出などの社会減に歯止めをかけながら、人口対策を着実に進めます。「稼ぐ力」のある内子町、「住み続けられる」内子町を目指すことで、まちづくりに共感する人々や企業が増えることは、内子のミライの力になります。これまで培った内子の魅力を強みとして最大限に生かすとともに、その魅力を磨き続けることが大切です。町民の皆さんの豊かで安心な暮らし、まちへの愛着と誇りを原動力とした、持続的に発展するまちを実現します。

6 ミライ・プラン (主な取り組み)

7 主な数値目標

8

ミライ1	<p>【住みたい人をよべるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 受入環境の充実 ▷ 子育て支援の充実— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 移住世帯・人数 (累計) / 100 世帯・230 人 ▶ 巡回相談 / 年 100 回、▶ 療育事業 / 年 150 回— 他 	<p>私たちの課の仕事</p> <p>(詳細は総合計画本編へ)</p>
ミライ2	<p>【誰もが安心して暮らせるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 生きがいを感じる場の提供 ▷ 地域医療体制の維持・強化— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 基幹相談支援センター設置 / 1 カ所 ▶ 救急医療体制の維持 / 現体制を維持・継続— 他 	
ミライ3	<p>【未来へつながる仕事を創造するまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 担い手の育成・労働力の確保 ▷ 創業・起業支援— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 認定新規就農者 / 19 人 ▶ 創業・起業の支援 / 15 件— 他 	
ミライ4	<p>【災害に強い安全なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 地域防災力の強化 ▷ まちの耐震化— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災士登録者数 / 300 人 ▶ 本町商店街の無電柱化 / 1,200 軒— 他 	
ミライ5	<p>【環境危機に行動するまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 環境教育の推進 ▷ ごみゼロへのチャレンジ— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境教育副読本の活用 / 年 6 回以上 ▶ 1 人 1 日当たりのごみの排出量 / 644g— 他 	
ミライ6	<p>【地域への愛着が観光につながるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 地域人材の育成支援 ▷ 地域資源の磨きと商品化— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 伝統産業技術研修者の育成 / 5 人 ▶ 滞在型体験プログラム商品 / 8 商品— 他 	
ミライ7	<p>【人も、地域も、生き生きと輝き続けるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 基礎コミュニティの維持 ▷ 地域の憩いの場の確保— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域づくり活動等の支援 / 8 カ所 ▶ コミュニティカフェの客数 / 1,000 人— 他 	
ミライ8	<p>【学びあい、育ちあえるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 国際人教育の推進 ▷ コミュニティ・スクールの推進— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 英語検定受験率 / 約 60% ▶ コミュニティ・スクール導入校 / 11 校— 他 	
ミライ9	<p>【次世代技術を活用したスマートなまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 行政事務の効率化・働き方改革の推進 ▷ 暮らしに寄与する次世代技術の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 電算システムクラウド化 / 導入 ▶ RPA 利用業務 / 3 業務— 他 	
ミライ10	<p>【内子のミライ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 内子本町商店街にぎわい計画 ▷ 歴史文化が息づく“まちづくり”計画— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 空き店舗等改修支援件数 (累計) / 5 件 ▶ 歴史的風致形成建造物等の活用 / 3 棟— 他 	
ミライ11	<p>【五十崎のミライ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ ものづくりとアートのまち ▷ 川づくりの継承— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 凧づくり後継者育成 ▶ ふるさとの川整備区間の修景・再生 / 1km— 他 	
ミライ12	<p>【小田のミライ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 内子高等学校小田分校の魅力化 ▷ 小田深山プロジェクト— 他 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 内子高等学校小田分校への支援活動 / 5 回 ▶ 小田深山溪谷来場者数 / 2 万 5,000 人— 他 	



町並み、村並み、
山並みが美しい
持続的に発展するまち

第 2 期

内子町総合計画

内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略
【概要版2】 2015～2024

発行年月日 : 令和2年3月

発 行 : 愛媛県内子町

編 集 : 内子町総務課政策調整班

〒 795-0392 愛媛県喜多郡内子町平岡甲 168 番地

☎ 0893(44)2111 FAX 0893(44)4300